

人 チーム 制度



**男性の長期育児休職取得！
短時間勤務の活用で仕事も家庭も充実**

パシフィックコンサルタンツ(株) 金井 亨太 さん

今回は、2016年3月から約1年間の育児休職後、2017年5月に復職されたパシフィックコンサルタンツ(株)の金井さんに休職中の過ごし方や復職後の上司や周囲の方に理解を得るために行っていることなどを伺いました。

これまでの経歴を教えてください。

2010年に経済産業省を退職し、ロンドン大学に自費留学して修士号を取得後、2013年4月に中途入社し、エネルギー・プロジェクト部(現:国際プロジェクト部)に配属になりました。第一子の誕生にあたり、上司からの勧めもあり2016年3月から育児休職を取得しました。2017年5月に復職し、現在は海外出張が比較的少なくすむ国際営業部に異動し、15時までの短時間勤務を利用して勤務しています。

プロフィール

氏名 : 金井 亨太さん
 所属 : 国際事業本部 国際営業部
 勤続年数 : 4年(2013年中途入社)
 居住地 : 東京都新宿区
 家族構成 : 妻/子供1人
 勤務状況 : 短時間勤務(9-15時)

育児休職の取得について上司からの理解はどうでしたか？

私の場合は育児休職について上司からの後押しがありました。もともと子供が生まれたら積極的に育児に参加したいと考えていたため、上司がそうした考え方に対して理解があったことはとても心強かったです。

休職中の過ごし方を教えてください。

休職中は家事・育児どちらも積極的に参加していました。家事については結婚当初から分担していたので、『育児休職を契機に』というよりはこれまで通り継続してやっていた感じです。育児と家事は切っても切れないものだと思います。育児は初めてで分からないことも多く、本を読んだりセミナーなどに積極的に参加して知識を増やして試行錯誤しました。母乳での授乳以外であれば男性でも全ての家事・育児に参加できると思います。(経験を積めば、出来ない人はいません！)

また、仕事が忙しくて大学院の博士課程を休学していましたが、上司から「育児休職の間に復学して、さらなるスキルアップを目指しては？」というアドバイスを

いただき、復学して研究活動も進めることができました。妻と同時に育休取得することで、お互いに協力して自己研鑽の時間を作れたことは大変貴重な機会となりました。

復職後の働き方について教えてください。

妻が大きな仕事を任せられ、ちょうど山場を迎えているという状況もあって、どの様に家事や育児を分担するか話し合い、当面は私が短時間勤務を選択してできる限りサポートしています。

男性が育児休職後も家事や育児を中心に担いながら業務を行うことはあまり例がないと思うので、理解されにくいだろうと思うこともありましたが、しかし、休み時間での同僚と家事・育児に関するトークなどを通じて、次第に「本当に男性が家事や育児をやっている」という認識が広まり、短時間勤務の取得に対する理解も得られてきた気がします。

発注者など社外の方に対しては、お会いした際に積極的にお話するなど理解を得られるよう心がけています。また、業務は情報共有を密にすることで、子供が体調を崩して急遽休む場合も発注者からの問合せ等に対応できるようにしています。

以前、子供が病気で保育園に行けなくなり、自分が看病のために休みを取っている間に子供の病気がうつってしまい、予定より長く休んでしまったことがありました。その時は、一緒に業務を担当していた同僚が問合せ等に対応してくれました。こういった場合もあるので、自身で仕事のやり方を工夫し、周囲に理解してもらう努力をすることが大事だと思います。

育児休職取得を考えている男性にアドバイスをお願いします。

日常生活の中で家事は自身で一通りこなせるようにしておくことです。少しずつでも続けてみるとそのうち誰でもできる様になります。育児休職を取得してから初めて家事に手を出すとかえって奥さんから邪魔扱いされるかもしれないので、是非とも育児休職の取得前に日頃から経験を積んでおいてください！

どうすれば業界で男性の育児休業取得者が増えると思いますか？

自分は育児には直接関係がないと考えている社員も含めて社内全体の理解が重要だと思いますので、育児休職を誰もが取得できる休職制度一体として位置づけるべきだと思います。各自がプライベートの充実のために取得できる休職制度となれば、男性の育児休職だけが特別なものではなく、自然と皆が協力するようになって、より気軽に取得できるようになるはずです。

★休職中の写真★

